



しまねの社会教育だより

vol. **6**



課題別研修「家庭教育と社会教育」
～親学ファシリテーター養成講座～



専門研修「コーディネート術実践講座」



基礎研修「社会教育施設入門」



基礎研修「しまねの社会教育入門」



基礎研修「コミュニケーション術入門」



専門研修「コミュニケーション・
プログラム実践講座」



専門研修「参加型学習実践講座」

特集

ふるまい向上プロジェクト

photo 西部社会教育研修センター主催講座

2010

発行：島根県立東部・西部社会教育研修センター

12月号

「ふるまい向上プロジェクト」

全国的に少子化や核家族化、価値観の多様化、雇用の流動化など社会が大きく変化してきています。それに伴い、かつて地域社会が生活の営みの中に宿していた人と人とのつながりや教育力が失われつつあります。また、規範意識やモラルの低下が原因と考えられる心を痛める出来事がメディアによく取り上げられています。

島根県は、美しい自然、文化、歴史、教育熱心な人々に恵まれた大変素晴らしい教育環境にあります。子どもたちは地域の教育資源「ひと・もの・こと」に触れる活動を通して、豊かな心を育てています。

全体的な傾向として

こんな子どもたちが増えています

- 我慢ができず協調性に欠ける
- 決められたルールが守られない
- 人と上手にコミュニケーションがとれない
- 基本的な生活習慣が身に付いていない
あいさつ、礼儀、作法、言葉遣い 等

一方親は？



「しまね」として大切にしたいこと

規範意識の確立

コミュニケーション力の向上

基本的な生活行動の確立

基本的な生活習慣の確立

豊かな心の育成

「ふるまい」を向上する!!

乳幼児期からの教育・養育を充実し、社会全体で子どもを育て、親を支援する。

「ふるまい向上プロジェクト」は、次世代を担う一人一人の子どもたちの幸せのために、

① 『自立して生きる力』

② 『人とともに生きる力』

を育てることをねらいとしています。



※「ふるまい」

ふるまいとは、「礼儀、作法、挨拶、しぐさ、モラル、ルール、しつけ、道徳、倫理観、生活行動、生活動作、思いやり」などの総称。

※「自立して生きる力」

早寝・早起き・朝ご飯、健康な心身、将来の夢や希望、感動する心など。

※「人とともに生きる力」

挨拶、ルールやマナーを大切にする心、人と関わる力、思いやりの心など。

～プロジェクトのねらいと今後の展開について～

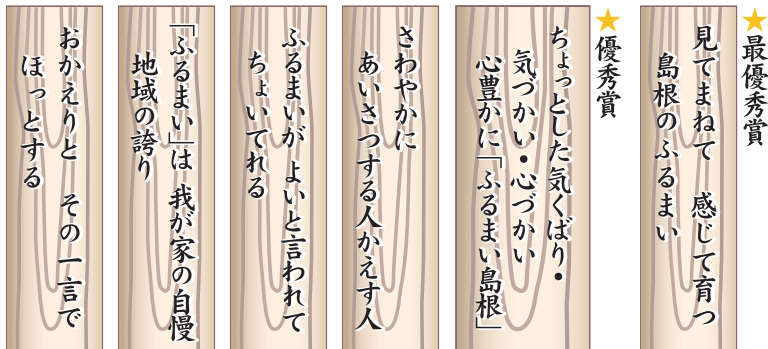
その結果、子どもたちの地域活動への参加率や地域で挨拶をする割合は、全国に比べて高い状況にあります。

島根県のよさを後世に伝えたい、これは県民だれもの願いです。そこで、「ふるまい向上」をきっかけ、県民をあげて、今できること、大切にしていかなければならないこととして、島根県、市町村、県・市町村教育委員会、警察本部が連携して「ふるまい向上プロジェクト」をスタートしました。

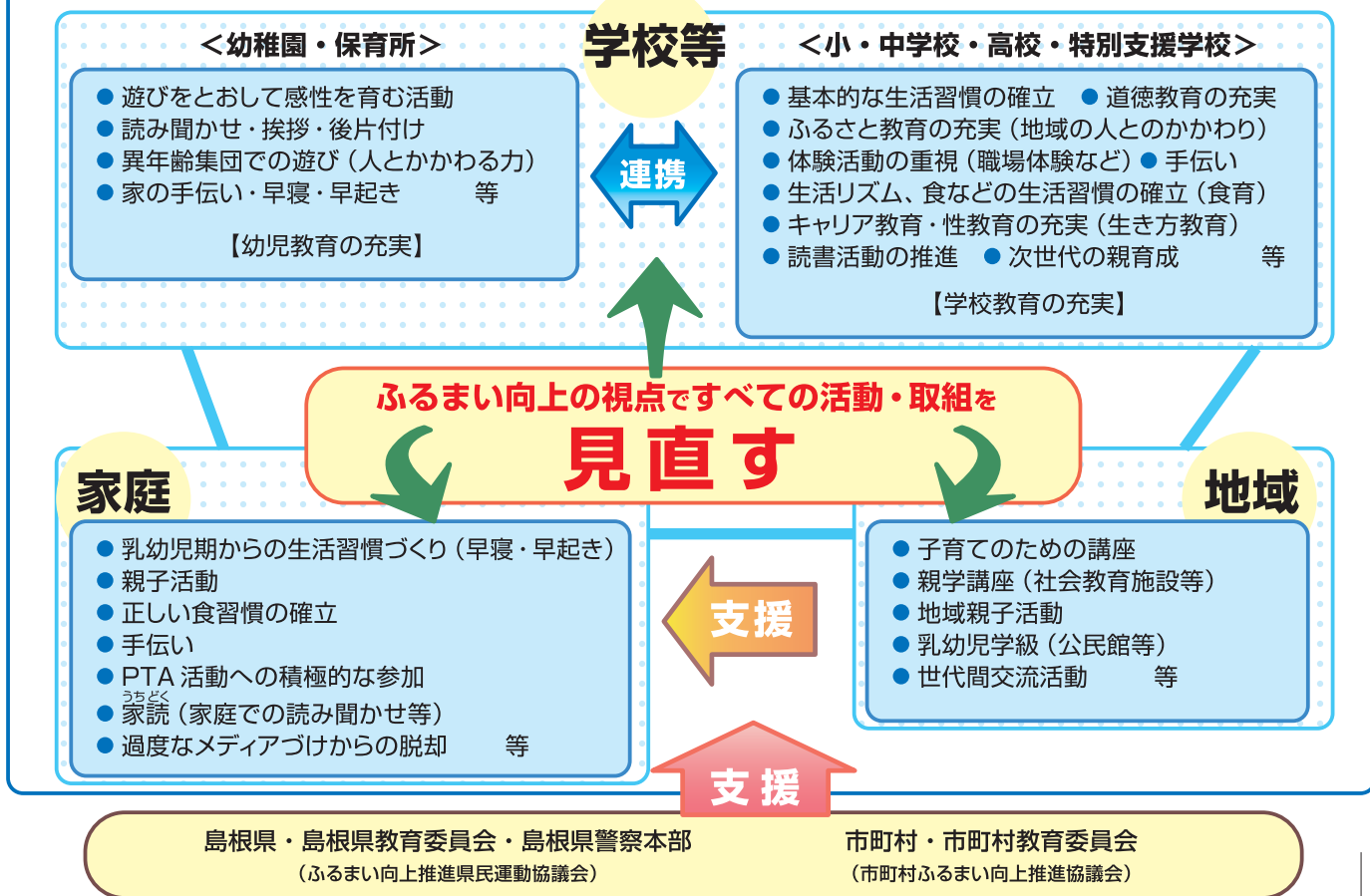
ふるまい向上を「しまね」の宝に

島根県では、「ふるまい向上」を合言葉に、社会全体、すべての年代でふるまいを向上させる県民運動を展開しています。「しまね」の子どもたちの未来のために、私たち大人にできることは何かを考えていく必要があります。

「ふるまい向上」ロゴマーク・標語決定!



◇ 「ふるまい向上プロジェクト」今後の展開 ◇



「ふるまい向上プロジェクト」は社会全体で子どもを育て、子どもやその親（保護者）を支援していきます。この取組を県民運動として盛り上げていく上で、社会教育も大変重要な役割を果たしています。

公民館ふるまい向上プロジェクトとは

「ふるまい向上」に関わる活動を通して、家庭・地域におけるふるまい向上の気運を高めることを目的とします。



◇「公民館ふるまい向上プロジェクト」の事業内容◇

「ふるまい向上」に関わる公民館関係者向け研修の開催や、公民館単位で実施する活動を支援します。

助成

平成22年度 33箇所(応募総数57箇所)

このような取組が採択されています。

- ◇子どもと関わり合う大人のためのコミュニケーションワーク講座
- ◇メディアとの上手なつき合い方 ◇親子のワークショップ
- ◇乳幼児を持つ親のための研修会 ◇生活体験通学合宿 ◇接遇などのマナーアップ講座
- ◇異世代間交流 ◇親学講座 ◇読み聞かせ講座
- ◇食育研修会(子どもおよび保護者、地域住民) ◇「ふるまい」に関するパネルディスカッション など



Point

- ① 子どもや家庭・地域の変容
- ② 地域住民が参画する仕掛けづくり

地域独自の取組

津和野町木部公民館

「ふるまい向上講演会」

～ふるまい講座 魅力学5原則～

「身につけるのはルールではなく、美しいマナーです。」
平成22年10月7日（木）に木部公民館において、宮川幸子さん〔(株)インターナショナル エア アカデミー〕を講師に「ふるまい向上講演会」を開催しました。地域住民の生活行動・生活習慣の向上を目的に、木部中学校生徒10名、教職員5名、地域の方44名の参加がありました。魅力学5原則【挨拶、笑顔、言葉づかい、身だしなみ、ふるまい】についての講演を聞きました。

今回の講座では、改まった場所でのふるまいの仕

方やその大切さを教えていただきました。特にこれから社会に出ていく中学生には、大きな刺激になったことでしょう。

「相手を敬う気持ちが、その仕草や言動に出る」、「言葉は人なり」、「否定語は使わない」などのキーワードが心に残りました。

中学生と地域の大人が一緒になり、これからの生活の中でのふるまい方について考えるきっかけとなる講座となりました。



「親学プログラム」の普及・開発…(P 6. 7に詳しく掲載)

多くの親（保護者）に学習機会を提供していくために、親学プログラムを活用できる「親学ファシリテーター」の養成を行います。

社会教育施設における意識啓発

県立青少年の家（サン・レイク）、県立少年自然の家において、東部・西部社会教育研修センターと協力しながら、親学プログラムを組み入れた親子体験参加型のプログラムや体験活動を通して、子どもの成長を促すプログラムを企画・実施します。



Point

各事業において「ふるまい向上」の視点を取り入れた事業展開



「チャレンジ・ザ・サマー」
(少年自然の家)



「サマーチャレンジ」(サン・レイク)



「ここにこファミリー」での親学講座(サン・レイク)

が広がっています

知夫村公民館

「職場体験合宿」

知夫村公民館では、中学2年生を対象とした職場体験合宿を9月5日（日）から11日（土）まで6泊7日の日程で行いました。参加した5人の生徒は、中学校の職場体験学習の期間中、合宿所で寝食を共にし、そこからそれぞれの職場に出かけて行きました。この合宿は、将来に備え、職場で働くだけでなく、生活で必要となってくる炊事、掃除、洗濯などの家事を行い、「ふるまい向上プロジェクト」の考えを踏まえ、自立のための自分自身の課題を見つけることを目的に行いました。食事づくりには地域の方にも協力してもらい、衛生面や安全面で気をつけることなどを学びました。

毎日、夜には一日を振り返るミーティングを行いました。各自が設定した個人目標に対する反省や翌日への改善点などを確認し、お互いに発表し合う事で集団としての課題や改善点も確認しました。

「炊事、洗濯、掃除をやってみて母がどれだけ大変なのかよくわかった。」「一人一人が気持ちよく過ごしていくために一番大切なのはあいさつだと思います。」などの感想が述べられました。



わずか一週間の共同生活でしたが、それぞれに気づきがあり、「ふるまい」にも向上が感じられました。

子育ての応援をします

親学ファシリテーターの活躍

県内各地で「親学プログラム」が広まってきています。その大きな原動力になっているのが、親学ファシリテーターの皆さんです。今回は、親学ファシリテーターの紹介をします。

親学ファシリテーターとは

東部・西部社会教育研修センターが開発した「親学プログラム」を活用して家庭教育支援ができる人のことです。今年度については「親学ファシリテーター養成講座」を両社会教育研修センターで5回実施し、約50名の方が親学ファシリテーターとして登録されました。



親学ファシリテーター養成講座の様子

親学ファシリテーターが各地で活躍しています



わくわく森もりランド in 自然の家での様子



出雲市認可保育所（園）保護者研修会の様子

これまでに出雲市の保育所の保護者を対象とした研修会、大田市の保育園の親学講座、江津市の少年自然の家での親学講座、吉賀町での子育て教室等で親学ファシリテーターが活動を行いました。



あなたのまちに親学ファシリテーターを呼んでみませんか

「親学ファシリテーターを呼ぶのは難しそう・・・」「どんな時に呼ばばいいの?」「費用がかかるのでは?」と思っている方・・・。そんな疑問にお答えします。

Q. 親学ファシリテーターはどのような時に来てもらえるの?費用は?

A. 「親学プログラム」を活用した子育て支援の学習会に派遣することができます。また、派遣に伴う費用(交通費・報償費)は県が負担します。

(例)・PTA研修会・学級懇談会・就学時検診・子育てサークル・家庭教育研修会・親学講座・子育てワークショップ・親子イベント 等

Q. 親学ファシリテーターに来てもらいたい時はどうすればいいの?

A. まずは、市町村教育委員会か東部・西部社会教育研修センターにご連絡ください。日程と学習会の内容を確認させていただき、手続きを経た後、親学ファシリテーターを派遣します。

Q. 当日は、親学ファシリテーターに学習の進行を任せていいの?

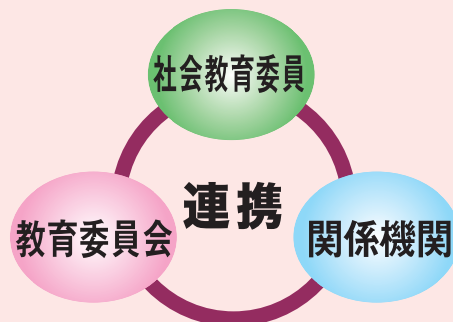
A. もちろん大丈夫です。学習会の主催者と親学ファシリテーターが役割分担をして会を進めることもできます。

「親学プログラム」の活用が 広まっています

吉賀町での取組

ポイント1 家庭教育支援の強い味方 社会教育委員との連携

町の社会教育委員の会で、今年度「家庭教育支援」を重点的に取り組んでいくことが話し合われました。9月27日、その一環として社会教育委員の方に親学プログラム体験講座に参加していただき、その後プログラムの普及について意見交換会を行いました。その中で「現場の方（保育所職員等）に体験してもらいたい」など具体的な意見が交わされ、家庭教育の支援のための有効な手立ての一つとしての認識が深まりました。



吉賀町の「親学プログラム」普及イメージ

ポイント2 子育て支援に関わる関係機関との連携

親学プログラム体験講座の後、役場保健福祉課からの要請で、親学プログラムを活用した子育て教室を開催しました。これからも関係機関と連携し、子育て世代を応援していきたいと思えます。



子育て教室：アイスブレイク（音探し）

ポイント3 まずは気軽に体験

子育て中のお父さん、お母さんに肩の力を抜いて気軽な気持ちで参加してもらえるように案内しました。また、参加した皆さんが「親学プログラム」の良さを実感することで、口コミを通し、輪が広がることを願っています。



子育て教室：カードワーク
（もし、子どもが〇〇で育ったら？）

ポイント4 チームでの取組

チームで役割分担をすることで、落ち着いてファシリテートすることができました。今回は、最初の雰囲気づくりを益田市吉田公民館の八坂さんが、ワークショップを教育委員会の深川社会教育主事が、アドバイスタイムについては宗内教育長がそれぞれ担当しました。チームで行う良さを実感しました。

※ ファシリテーターを経験して ※

時間に追われて早口になる私を、もう一人のファシリテーターの八坂さんが柔らかい口調で和ませてくれました。アイスブレイクでのリラックス度が、その後の講座の成功につながることを実感しました。最後のアンケートで、お母さんの気づきが書かれてあるのを見たときはうれしかったです。

親学ファシリテーター 深川 千恵（吉賀町教育委員会）

初めてのファシリテーターの実践でしたが、事前や当日の打合せがしっかりできたので、流れが分かって進めやすかったです。アイスブレイクを担当したのですが、全体的な流れを考え、ワークショップのテーマに合ったものが良いのではと改めて思いました。一番の収穫は、ファシリテーターが緊張せずリラックスすれば、そのことが参加者にも伝わり、安心感が生まれることを体感できたことです。

親学ファシリテーター 八坂美恵子（益田市吉田公民館）

モデル公民館は “いま”

実証！「地域力」醸成プログラムモデル公民館 松江市来待地区公民館

【実証事業のテーマ】「豊かな田舎暮らし」の可能性を住民自身が再発見 定住対策に自信と誇りを

来待地区は古事記以来の歴史がある人口約 3,300 人のまちで、国道 9 号や JR 山陰本線の沿線にあり、のどかな農山村地域です。この地域は、①豊かな自然環境と農林業、②人と人とのつながり、③各種の施設立地と都市への近さといった快適な生活の可能性も持っていますが、住民がこうした「豊かな田舎暮らしの価値」に気づかず、来待地区を離れてしまうことが続いていました。住民が地域のよさを再発見することを通じて、地域に自信を持ち、定住促進を柱に地域の将来に何が必要か、どう活動したらよいかを住民と共に実践的に学びたいという強い願いを持ちました。

そこで、来待地区公民館では上記のテーマを設定し、地域力の醸成に取り組むことにしました。

POINT1. 他地域との交流を契機とした “地域の再発見”

これまでに、定住促進に力を入れている県内先進地域の方や、地域づくりに力を注いでいる県内公民館との相互交流また大学生など若い世代を呼び込む「来待青春村」事業さらに「交流が地域を元気にする」と題して「きまち定住セミナー」を開催してきました。

これらの交流をきっかけとして、来待地区のよさを再発見できたことにより、「きまち炭焼き倶楽部」、「古民家整備・活用」などの各種地域活動が活性化してきました。これらの活動は以前よりも地域住民の関心を高め、参加者の拡大につながっています。

さらに、その波及効果として、地域住民に地域外の人を受け入れようとする気運が高まっています。



きまち炭焼き倶楽部のレディース教室

POINT2. 来待の財産 ～人と人とのつながりを深めるために～

来待地区には、住民同士の深いつながりが残っています。これを窮屈なものにとらえるのではなく、「豊かな田舎暮らし」のための大切な基盤ととらえました。このつながりをさらに深め、一人ひとりを大切に作る風土づくりに力を注いでいます。

公民館を拠点にして、四季折々に地域住民が集い、互いの絆を深めるイベントを継続的に実施してきました。

- (春) 春の公民館まつり
- (夏) 森のマリンパーティー
- (秋) 敬老交流会と
公民館まつり
- (冬) 新成人のつどいと
来待新年のつどいなど

これらは毎年延べ約 3,000 名の住民が集う、来待地区に欠かせないイベントになっています。



公民館の祭りで演技をする幼稚園児

また、来待地区全体で一人一人を大切にする風土をつくるために、毎年「人権のつどい」を開催し、地域に根ざした人権尊重の学習を進めています。

POINT3. 住民自身が地域活動の 主体となるまちづくり

公民館が核となって進めてきた様々な事業を通して、地域内に様々なボランティアグループが生まれ、ネットワーク化が進みました。地域の活動に地域住民が主体的に関わりながら担い手になっているという実感があります。

このように、公民館では、地域で活躍する全ての年代の方に光を当てること、それら活動主体となっている方同士をつなぐことに力を注いでいます。

さらに、「ポポミ塾」事業では、若い母親の活動を支援しながら、次世代リーダー育成にも取り組んでいます。

来待地区公民館は、平成 26 年度をもって地区の集会所へ移行することが決まっています。

だからこそ、自主的な活動主体を育成することは、地域の存続のために不可欠であり、これからも積極的な取組を進めていきたいと思っています。



ポポミ塾（次世代育成事業）
～楽しい農村のお嫁さん～

お知らせ

来待地区公民館では、「実証！地域力醸成プログラム」の3ヶ年の成果と課題を整理し、今後の方向性を示すために、2月15日（火）13:30より

「明日の公民館づくりシンポジウム」(仮)

を開催します。多数の関係者の方のご来場をお待ちしています！

来待地区公民館

〒699-0405 松江市宍道町上来待212-1

TEL. 0852-66-3554 FAX. 0852-66-9150

モデル公民館は “いま”

実証！「地域力」醸成プログラムモデル公民館 益田市都茂公民館

【実証事業のテーマ】お父ちゃんの中はでっかいぞ！～体験活動を通じて、親の輪・親子の輪・地域の輪づくり～

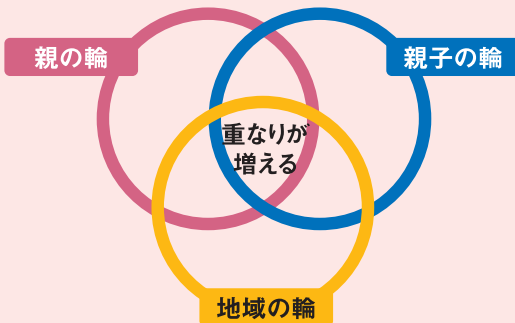
都茂地区は、人口約1,100人、高齢化率40%の町です。地域で子どもを育む気運が高まっている中、当事者としても何かしなければという思いから、ここに若いお父さんを中心とした「(遊)子育て建設」が設立されました。「体験活動が主体、軸はお父さん!」をモットーに、公民館を核として、夢が膨らむ活動を行っています。

POINT1. 暮らしやすく 子育てしやすい地域に!

都茂地区は、子育てサロン、まちかど声かけ隊、ボランティアハウス、放課後児童クラブなど、地域で子どもを育む気運が高まっています。

そんな中で、保育園児を持つ若いお父さんから、「私たち父親も、地域や子どもたちに対して何かしたい。」というつぶやきが聞こえて来ました。

公民館は、この自発的な声を大切に、保育所と共に、「(遊)子育て建設」の設立と運営に一役買うことになりました。



(遊)子育て建設 ビジョン
暮らしやすく子育てしやすい地域!

POINT2. 体験活動から広がる “地域の輪”

社会情勢の変化に伴い、子育ての環境も厳しくなる中、「まず、親同士と一緒に活動し、家族がつながるきっかけをつくらう」という目的で活動をスタートさせました。父親の役割に焦点を当て、親の背中を子どもに見せるのもねらいの一つです。

「昔の生活体験事業」では、全てのメディアから離れ、火おこしで火を起し、竹筒でご飯を炊きました。竹を削って皿やスプーンを製作するお父さんを、見よう見まねで手伝う子どもの姿がありました。きっとお父さんの活躍が頼もしく見えたことでしょう。

このような活動の様子は、広報誌で紹介します。地域の方にも理解していただき、支援協力体制もできてきました。

さまざまな体験をとおして、親子の輪、親同士の輪、地域の輪ができ、それらの重なりも少しずつ増えています。



昔の生活体験の様子

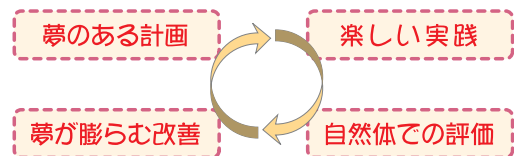
ユニフォームを着て張り切るお父ちゃん・お母ちゃん



POINT3. 楽しい実践から 美しい都(MITO)づくりへ!

「(遊)子育て建設」ではPDCAサイクルがうまく機能しており、夢が広がっています。

PDCAサイクルが機能する!



特に、事業ごとの検証会では、お酒を酌み交わしながら夢を語り合い、それが次の大きな原動力になります。

集団でなければできない面白い企画、親同士の情報交換や相談など、子育てに関わることから、地域の環境整備などへと視野が広がり、美しい都づくりにも思いを馳せています。



美しい都 (MITO)

都茂公民館

〒698-0203 益田市美都町都茂1692甲

TEL. 0856-52-2295 FAX. 0856-52-2296

わがまちの 社会教育の実践紹介

浜田市

金城三偉人ウォーキング

浜田市立雲城公民館 館長 岡本 修治

浜田市公民館金城自治区会では6公民館が協力して地域出身の能海寛、島村抱月、岡本甚左衛門の「三偉人ウォーキング大会」を実施しています。三偉人の偉業や生き様についてウォーキングをしながら学ぶという企画で、来年度以降も継続する計画です。

まず、ウォーカーに気持ちよく参加していただくため



説明ボランティアに耳を傾ける参加者

事前に三偉人についての学習会を実施するとともに、ゆかりの地点をめぐるコース設定とそれぞれの地点の説明者の決定、コース整備作業計画、もてなし計画、大会当日の役割分担などを行う実行委員会を開催しました。

当日は、受付・案内・説明・接待・救護などに多くの地域の方々や中学生ボランティアなど30人以上がかかわって進められました。本年度はそれぞれの大会に70～100人の参加者がありましたが、地域の人々の心をこめた説明ともてなしに、金城の風景や風土を十分に楽しみ理解していただきました。



草刈の終わったコースを歩くウォーカー

子育て応援で地域力アップ!!

安来市荒島交流センター 主事 古志野 郁美

安来市

荒島交流センターでは今年度、世代を超えた人々との活動を通して、お互いに元気・知恵・話題を分け合い、町全体が活発に楽しく活動することを目標とする「子育て応援プロジェクト」を始めました。

(1) あらしまキッズ&ファミリー（人まちファンド助成）

第1回「メグさんとあそぼう!」 第2回「元気いっぱい! よしととひうた 紙芝居ライブ」 第3回「はっぴ～すまいる・クリスマスコンサート」を実施しました。毎回それぞれのメインイベントの後に、地域の方の応援で、ふれあいの場として、レストラン・カフェ・青空市・フリマなどで、町民同士楽しみました。



元気いっぱい!よしととひうた 紙芝居ライブ

(2) 荒島交流センター連（ふるまい向上プロジェクト助成）

「あらしま踊り」で町内会の連が無い家族を対象にセンター独自の連を組み、夏祭りの「あらしまこ～ふんふえすた」で披露。振付・指導は「新舞踊サークル」の方にお願ひし、同時に「ふるまい」についても指導していただきました。

(3) 夏休み体験教室

小学生とエコタワシ・牛乳パック小物・自然工作・宿題親子屋の活動をしました。講師は地域の方や職員。材料も地元で集めました。

荒島交流センターは、これからもたくさんの方々の出会いの場を提供し、地域活性に貢献したいと思います。



「あらしま踊り」地域の方と一緒に踊りました

県内派遣社会教育主事 奮闘中!

学校と地域が協力した小さな島でのふるさと教育

知夫村教育委員会 派遣社会教育主事 藤住 亨



隠岐諸島にある知夫村は、人口約650人の小さな離島の村です。島の人々はカキ養殖などの漁業や牛の放牧による畜産業などで生活をしています。島には、保育所・小学校・中学校が一つずつあり、子どもたちは豊かな自然の中で地域と深く関わりながらのびのびと育っています。その子どもたちも中学校を卒業すると高校進学や就職などで島を離れることが多く、高齢化・人口減は村の大きな課題となっています。

子どもたちや地域住民がふるさに誇りと自信をもち、将来に夢と希望を抱き、この島でいきいきと生活できるよう支援していくことがこの村の社会教育のめざすところです。



放牧の邪魔になるあざみを一本一本手作業で取り除いていきます



「しげさ節」を唄と三味線・太鼓にあわせて踊ります

ふるさと教育の推進については、学校と地域が協力してさまざまな取り組みを行っています。公民館が主催する事業には、子どもだけでなく学校教職員も参加し、保護者や地域住民・担当課行政職員なども加わり、多くの人が関わりながら実施しています。

「あざみ掘り」では、畜産関係者や役場地域振興課職員から指導を受け、中学生と小学5・6年児童などが作業に取り組みました。「牛や牛を飼っている人の役に立てて達成感があった。」など畜産業に理解を深めていました。

「隠岐民謡教室」は、小学校の授業に組み込み、芸能保存会による唄と踊りを鑑賞し、踊りも体験しました。「次は皿踊りも習いたいです。」など郷土芸能に関心が高まった様子でした。

「かなぎ漁体験」は、中学校生徒会キャンプとタイアップして実施し、現在でも続いている伝統漁法に中学生が挑戦しました。実際に体験してはじめて分かることが多くありました。

これらの活動を通して、ふるさとの魅力やこれからの課題に気づいてくれることを期待しています。今後も、小さな村だからこそできる特色ある取り組みを実践していきたいと考えています。



箱型的水中眼鏡を覗き、サザエをモリでついて採ります

12月～3月の主催講座のお知らせ

東部社会教育研修センター 出雲

12月 1月19日(水)～2月25日(金)
社会教育主事講習(B)

東部社会教育研修センター

検索



こちらもぜひご利用ください

島根県視聴覚センター (サン・レイク2F)

社会教育、生涯学習に必要な視聴覚教材、視聴覚機材、図書や市町村の資料の貸出・閲覧事業を行なっています。

□ 視聴覚教材・機材、図書等の貸出

- 視聴覚教材(ビデオ・DVD): 5本以内…貸出期間10日
- 視聴覚機材(プロジェクター・スクリーン)…貸出期間10日
- 図書等: 5冊以内…貸出期間14日
- 受付時間
月曜日～金曜日(祝日及び年末年始を除く)
午前9時から午後5時
- 視聴覚センターへの相談方法
面談、電話、FAX、メール、文書など

<連絡先> 島根県立東部社会教育研修センター

ホームページもぜひご覧ください

本年度の研修も残すところ「社会教育主事講習〔B〕」のみとなりました。これまでの研修の様子は、東部・西部社会教育研修センターのホームページで紹介しています。

ぜひご覧いただき、来年度の研修計画の参考にしていただければと思います。



西部社会教育研修センター 浜田

12月 1月19日(水)～2月25日(金)
社会教育主事講習(B)

西部社会教育研修センター

検索



放送大学島根学習センター浜田コーナー (いわみ～3F)

放送大学は、いつでも誰でもがテレビ・ラジオの放送を通して学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された通信制大学です。

□ 利用について

- 事業内容
テープ・CD等による放送授業の視聴
テープ・CD等の貸出(放送大学生のみ 7日間 2本)
- 受付時間
月曜日～金曜日(祝日及び年末年始を除く)
午前9時から午後5時

<連絡先> 島根県立西部社会教育研修センター



【放送教材視聴コーナー】

編集スタッフから

先日開催した生涯学習施設運営委員会に出席された県内公民館職員の方からこんなことをお聞きしました。

「『しまねの社会教育だより』は、私にとって、“社会教育のバイブル”です。いつも手元に置いて読んでいる大切な情報誌です。」

本誌が社会教育の普及と活性化のための一助となっていることがわかり、うれしく感じました。

これからも県内社会教育関係者の皆様のお役に立ち、また皆様の御活躍に光をあてられるような誌面づくりに努めます。本誌についての御意見・御感想等をお待ちしています。

東部社会教育研修センター

〒691-0074 出雲市小境町1991-2 サン・レイク2F
Tel. (0853) 67-9060 Fax. (0853) 69-1380

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/tobu_shakaikyoiku/
E-mail: tobu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp

西部社会教育研修センター

〒697-0016 浜田市野原町1826-1 いわみ～3F
Tel. (0855) 24-9344 Fax. (0855) 24-9345

URL: http://www.pref.shimane.lg.jp/seibu_shakaikyoiku/
E-mail: seibu_shakaikyoiku@pref.shimane.lg.jp